

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長	碓田 猛真
部長兼聴覚言語支援センター長	中原 啓
医 長	宝上 竜也
副医長	野村 直孝

＜特色と概要＞

2023年度の当科の医師は碓田猛真主任部長、中原啓部長、宝上竜也医長、野村直孝副医長の4名体制であった。またリハビリテーション部門の間三千夫・平野翠が言語聴覚士として診療に従事した。

当科は複数の耳鼻咽喉科医が常勤している施設として大阪府下最南端であり、地域におけるEnd-Hospitalとしての役割を担う責任を負っている。

外来は週5日とも午前中に1診もしくは2診察体制で行っている。特殊外来として水曜日午後（第4週を除く）に超音波外来を開設し、頸部のECHO検査および細胞診を行っている。主に甲状腺疾患が中心だが、唾液腺疾患や頭頸部癌患者のfollowもを行っている。

また、当科併設の「聴覚・言語支援センター」を発足させ、聴覚障がい・言語障がい等の治療を行っている（詳細は共同運営部門：聴覚・言語支援センターにて掲載）。

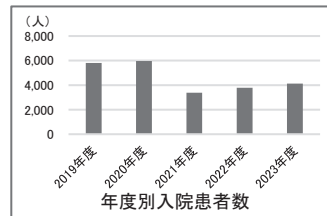
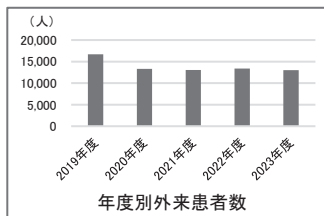
開設当初より我々は南泉州地域の頭頸部癌診療拠点を目指して活動している。「がん薬物療法専門医」である碓田を中心に放射線化学療法を主体とした臓器温存型の治療や再発癌に対するsecond-lineの化学療法を行い良好な成績を得ている一方で、進行癌に対する拡大手術にも対応している。

また大阪府耳鼻咽喉科医会の要請を受け耳鼻咽喉科二次後送病院ローテーションに参加し、耳鼻科疾患の時間外二次救急患者受入に対応している。実際に搬送されるのは年に数件だが、泉州医療圏の後送施設は限られており地域医療における重責を負っている。更に泉佐野泉南耳鼻咽喉科医会と連携し、土曜日や時間外の救急患者受け入れも行っている。

＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	16,707	69.0	5,812	15.9
2020年度	13,310	54.8	5,959	16.3
2021年度	13,066	54.0	3,378	9.3
2022年度	13,384	55.1	3,792	10.4
2023年度	13,002	53.5	4,128	11.3



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

(期間2023/4/1-2024/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
慢性副鼻腔炎, 詳細不明	J329	36
急性扁桃炎, 詳細不明	J039	35
甲状腺	D440	31
扁桃周囲膿瘍	J36	19
慢性扁桃炎	J350	17
口唇, 口腔及び咽喉	D370	16
睡眠時無呼吸	G473	12
反復性及び持続性血尿, その他	N028	12
突発性難聴(特発性)	H912	11
その他の末梢性めまい<眩暈(症)>	H813	10
声帯及び喉頭のポリープ	J381	10
甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	C73	9
喉頭	D380	9
中耳真珠腫	H71	9
ベル<Bell>麻痺	G510	8
非化膿性中耳炎, 詳細不明	H659	8
中耳炎, 詳細不明	H669	8
舌, 部位不明	C029	6
喉頭, 部位不明	C329	6
非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 詳細不明	C859	6
頭部, 顔面及び頸部リンパ節	C770	5
鼻中隔彎曲症	J342	5
処置に合併する出血及び血腫, 他に分類されないもの	T810	5
帯状疱疹, その他の神経系合併症を伴うもの	B022	4
下咽頭, 部位不明	C139	4
びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	E050	4
外耳道真珠腫(症)	H604	4
扁桃肥大	J351	4
喉頭のその他の疾患	J387	4
頸部の皮膚膿瘍, せつ<フルンケル>及びびよう<カルブンケル>	L021	4
前耳介洞及び前耳介のう<嚢>胞	Q181	4
その他の内分泌腺の先天奇形	Q892	4
コロナウイルス感染症2019, ウイルスが同定されたもの	U071	4
上顎洞	C310	3
上皮小体<副甲状腺>	D351	3
メニエール<Ménière>病	H810	3
難聴, 詳細不明	H919	3
アレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>, 詳細不明	J304	3
鼻<上>咽頭, 部位不明	C119	2
声門	C320	2
頭部, 顔面及び頸部	C760	2
皮膚	D485	2
貧血, 詳細不明	D649	2
その他の感染性外耳炎	H603	2

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
後天性外耳道狭窄(症)	H613	2
良性発作性めまい<眩暈(症)>	H811	2
前庭神経炎	H812	2
両側性伝音難聴	H900	2
両側性感音難聴	H903	2

検査治療数集計

診療明細名称	件数
鼓室形成術・鼓膜形成術	22
鼓室形成手術(耳小骨温存術)	12
鼓室形成手術(耳小骨再建術)	7
鼓膜形成手術	3
外耳道形成術・造設	7
外耳道形成手術	6
外耳道造設術・閉鎖症手術	1
顔面神経減圧手術	1
顔面神経減圧手術(乳様突起経由)	1
人工内耳埋込手術	7
人工内耳植込術	7
耳瘻孔摘出術	7
先天性耳瘻管摘出術	7
鼓膜切開術	47
鼓膜切開術	47
鼓膜チューブ挿入術	38
鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	38
内視鏡下副鼻腔手術	127
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	39
内視鏡下鼻手術1型(下鼻甲介手術)	33
内視鏡下鼻中隔手術1型(骨、軟骨手術)	21
内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻腔単洞手術)	13
内視鏡下鼻・副鼻腔手術1型(副鼻腔自然口開窓術)	9
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	6
内視鏡下鼻中隔手術2型(粘膜手術)	4
内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)	1
内視鏡下鼻手術2型(鼻腔内手術)	1
鼻中隔矯正術	5
鼻中隔矯正術	5
鼻腔粘膜焼灼術	45
鼻腔粘膜焼灼術	45
口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術	163
口蓋扁桃手術(摘出)	145
アデノイド切除術	18
口腔・咽頭膿瘍切開術	9
咽後膿瘍切開術	8
口腔底膿瘍切開術	1
軟口蓋形成術	1
軟口蓋形成手術	1
唾石摘出術	5
唾石摘出術(一連につき)(表在性のもの)	5
直達鏡下喉頭微細手術	5
喉頭腫瘍摘出術(直達鏡によるもの)	5
舌口腔咽頭良性腫瘍手術	5
中咽頭腫瘍摘出術(経口腔によるもの)	2
舌腫瘍摘出術(その他のもの)	2
下咽頭腫瘍摘出術(経口腔によるもの)	1
甲状腺良性疾患手術	20
甲状腺部分切除術, 甲状腺腫摘出術(片葉のみの場合)	18
甲状腺部分切除術, 甲状腺腫摘出術(両葉の場合)	2
耳下腺良性疾患手術	12
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺浅葉摘出術)	9
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺深葉摘出術)	3
顎下腺良性疾患手術	2
顎下腺腫瘍摘出術	2
気管切開術	18
気管切開術	18
リンパ節摘出術	19
リンパ節摘出術(長径3センチメートル未満)	14
リンパ節摘出術(長径3センチメートル以上)	5

頸部膿瘍手術	6
深頸部膿瘍切開術	6
喉頭下咽頭悪性腫瘍手術	4
喉頭悪性腫瘍手術(全摘)	3
喉頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む。)	1
甲状腺悪性腫瘍手術	22
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	19
甲状腺悪性腫瘍手術(全摘及び亜全摘)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	3
頸部郭清術	9
頸部郭清術併加算(片側)	7
頸部郭清術(片側)	2
耳鼻咽喉異物摘出術	6
咽頭異物摘出術(複雑なもの)	5
咽頭異物摘出術(簡単なもの)	1

2023年4月から2024年3月までの新規入院患者数は延べ4,128名、1日当たりの平均入院患者数は11.3名であった。

同期間の外来患者延べ数は13,002名、1日平均外来患者数は53.5名であった。

過去10年間の総手術件数は、鼓室形成術:362側、人工内耳植込手術:93側、内視鏡下副鼻腔手術:973側である。また、最新年度である2023年度における1年間の手術実績を上記に示す。当科は耳科手術、鼻科手術の割合が高い。これは府下でも有数の実績であり、人工内耳植込術、内視鏡下副鼻腔手術V型の各施設基準を満たしている。一方で頭頸部癌に対しては放射線化学療法を主体とした治療を行っているため癌手術はやや少ない傾向にある。

<今年度の反省と来年度への抱負>

2023年度は、5月に5類となった新型コロナウイルス感染症の影響をそれほど受けることなく、通常の診療を行えたと感じている。

2024年度に関しては、頭頸部センターが立ち上がっており、耳鼻咽喉科領域および口腔外科領域の腫瘍病変に関して、これまで以上に積極的に診療していく次第である。口腔外科とも週に1度の合同カンファレンスを導入しており、お互いにこれまで以上に協力しながら治療ができる体制を整えていく。